

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1197.00	2021/3/22
High	1197.00	2021/3/22
Low	1145.00	2021/3/25
Close	1187.00	2021/3/26

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4182.00	2021/3/22
High	4182.00	2021/3/22
Low	4017.00	2021/3/22
Close	4184.00	2021/3/26

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2628.50	2021/3/22
High	2686.70	2021/3/26
Low	2562.50	2021/3/22
Close	2677.70	2021/3/26

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	9184.00	2021/3/22
High	9469.00	2021/3/26
Low	8952.00	2021/3/22
Close	9438.00	2021/3/26



ニュースエクスプレス

今後12ヶ月でパラジウム3000ドル/オンス、プラチナ1350ドル/オンスに— TDS

プラチナとパラジウムの高騰が目立っている。世界経済が順調に回復に向かい、排ガス規制が厳しくなる中、鉱山生産が中断するなどで品不足が顕著になり、加TD Securitiesは今後12ヶ月でパラジウムは3000ドル/オンス、プラチナは1350ドル/オンスまで上がるというレポートを発表。

レポートの主な内容は以下の通り。

「最近の鉱山生産の問題と、ノリリスク・ニッケルが生産目標を下げたことで供給サイドはさらにタイトになるだろう。鉱山の運営上の問題は2021年の生産を直撃し、プラチナは5.8トンの減産、パラジウムは21.2トンの減産となるだろう。しかしパラジウムに関しては鉱山生産よりも多い地上在庫3.1トンが埋め合わせとして市場に提供されるだろう。」

「パラジウム市場は、2021年は36.1トン、2022年には18.7トンの大幅な品不足となり、プラチナは、2021年は7.8トン、2022年は0.5トンの品不足となるだろう。このためパラジウムはコロナ禍以前の2020年3月に記録した最高値の2883ドル/オンスに再び迫り、さらには3000ドル/オンスも視野に入ってくるだろう。」

「プラチナは過去7年間で最も高値で取引されて然るべきで、今後12ヶ月の間に1350ドル/オンスを超えるだろう。また短期の流動性がタイトになっているため、トレーダーはリースレートが大きく上昇することを予期すべきだ。」

<https://www.fxstreet.com/news/palladium-and-platinum-to-top-3-000-oz-and-1-350-oz-respectively-over-the-next-12-months-tds-202103191608>

脱炭素、プラチナ需要に追い風

プラチナ（白金）の国際価格が昨秋以降上昇基調だ。世界的な脱炭素化が加速し、燃料電池車（FCV）や生成過程で二酸化炭素（CO2）を出さない「グリーン水素」の製造に使う白金の需要増加観測が強まってきたことが一因だ。白金の国際調査機関WPIC（英）で市場調査の責任者を務めるトレバー・レイモンド氏に聞いた。

—脱炭素化は白金需要にどう影響しますか。

「FCVに使う白金は10年以内に年31トンと、現在の年間需要（約250トン）の1割以上になる。一方、ハイブリッド車やディーゼル車も車両構成の一部として残る可能性がある。厳格な排出規制をクリアするのに必要な触媒は増えるため、ディーゼル車などの触媒需要も増加する可能性がある」

—ガソリン車の触媒に使うパラジウムの高騰で自動車各社は一部をプラチナに置き換えているとの指摘があります。

「代替の動きはパラジウムがプラチナの価格を上回った2018年に始まっていた。代替に伴う自動車各社のコスト削減効果は大きく、今後4年以内に年31トンの代替需要が生じるとみる」

—白金の副産物のロジウムやイリジウムも高騰しています。供給は増えないのですか。

「中国の排ガス規制強化でロジウムの需要は大幅に増加した。イリジウムも水素生成の触媒に使うため注目されている。これらは白金の鉱石に含まれ、白金の生産量が増えない限り供給を増やせない。今後3年間、白金族の供給を大きく引き上げる開発計画はない」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODJ225HY0S1A320C2000000/>

プラチナ触媒を活用してフードロス削減を

プラチナ触媒を活用してフードロス削減を北海道大学が開発した野菜などの鮮度を保つ技術を活用してフードロスの削減方法を話し合うフォーラムが札幌で開かれました。

共同事業体を組織するセコマと北大は、野菜や果物から発生し鮮度が落ちる原因になるエチレンガスを分解する「プラチナ触媒」の普及を目指しています。

この技術を野菜を保管する倉庫や配送のトラック、売り場の冷蔵設備などに実用化することで流通過程でのロス削減につなげたい考えです。北大などが行ったプラチナ触媒を使った実験では野菜の廃棄率がおよそ5パーセント減ったということです。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6ebd7c0811ed70a098abb9ed4a6f46425591cdd8>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- 近日WPICのリサーチヘッドであるトレバー・レイモンド氏は日本経済新聞のインタビューに応じ、脱炭素化とグリーン水素にPGMが果たす役割と今後の需給について話しました。詳しくは <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO70346850V20C21A3QM8000/>

- 楽天証券はプラチナに関するレポートとビデオ「プラチナ相場はフォルクスワーゲン問題の呪縛から解放されたか」を自社サイトで掲載しました。詳しくは

レポート <https://media.rakuten-sec.net/articles/-/31383>

ビデオ <https://media.rakuten-sec.net/articles/-/31388>



(@wpicjapan)